

つるぎ 劔神社発掘

しんぶつしゅうごう 神仏習合の源流を探る



劔神社には国宝の梵鐘ぼんしゅうがあります。福井県に6件しかない国宝のひとつで、丹南地区では唯一のものであります。



「劔御子寺鐘 神護景雲4年(770年)9月11日」の銘が入っています。少なくとも同年には、劔神社と劔御子寺という神宮寺が神仏習合の形で存在していました。

平成22年度調査



わずかな発掘面積にもかかわらず、約800点の遺物が出土しました。なかでも、須恵器が7点出土し、うち1点が700年代後半の時期でした。この遺物は梵鐘の年号に近い年代のものとなります。



境内を東西に仕切る落ち込み状の遺構やその北側に沿う水路の遺構が発見されました。遺構は「劔神社古絵図」(室町時代)に描かれた神宮寺と神社とを仕切る区画溝だとわかりました。



古絵図では水路の北側に神社施設、南側に仏閣が描かれています。落ち込みや水路の発見は、中世における神仏習合の在り方を知る上で重要だといえます。



平成22年度の発掘調査は、拝殿と社務所の間の2カ所で行いました。第1調査区は十字状に幅1m、南北に長さ7m、東西に長さ9.7m。第2調査区は1.6m、横1mの長方形の形で発掘しました。

コラム

世界に誇れる文化が越前町にあることを、皆さんはご存知でしょうか。それは、越前町が神仏習合しんぶつしゅうごうの発祥地かもしれない、という理由からです。神仏習合とは、神と仏を共存させた日本独自の考えです。世界中で起きている悲惨な戦争の多くは宗教によるもので、西欧の神々の共存を認めない考えが根底にあるようです。もともと日本には、いろいろなものに魂が宿ったり、その共存を認めたりする

考えがあります。「千と千尋の神隠し」の世界観です。その代表的な考え方のひとつが、神仏習合です。世界的に見ても稀な、それこそ平和につながる素地が含まれています。神仏習合は奈良時代から始まり、江戸時代まで続いていました。日本の長い歴史では神社と寺院は同じようにならなれてきたのです。私たちの家の中を見ても、神棚と仏壇があります。これも神仏習合の名残なのです。私たちが見ている寺社の風景は、一四〇年



落ち込み状の遺構や水路が江戸末から明治初めにかけて一気に埋められたことも判明しました。江戸末に行われた拝殿建設などの境内整備か、明治初めの神仏分離令とそれに伴う廃仏毀釈運動によるものか、今後の研究によって明らかになることでしょう。



平成23年度の調査は、第1調査区は幅1.5m、長さ6mを参道に沿って設定しました。第2調査区は幅1m、長さ3mを参道に直交する形で設定しました。面積は計12平方mです。



平安時代後期から末にかけて大規模な境内改変を行った痕跡が確認できました。指をさしたあたりです。縁起によると、劔神社は平安後期に平清盛によって焼かれ、息子の重盛が再興しています。その時に境内の低い箇所に土を入れて整地した可能性が高いです。



第1調査区からは土器が1,000点以上出土しました。

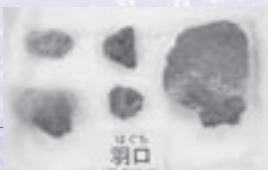
平成23年度調査



劔神社古絵図によると、平成23年度の調査区は神宮寺の中核部にあたります。掘り進めると、地面から2.3m下の深いところで、約1,300年前の層が検出されました。社務所の南あたりは、昔は谷地形になっていたようです。



最も深い地点で、奈良時代頃の神宮寺の参道跡が確認されました。昔の寺は地中深くに埋まっていた。



出土品の中には、大量の平安時代の土器とともに、羽口5点と大量の鉄滓が含まれていました。



劔神社では古代に鍛冶を行っていた証拠となります。

2年間の調査では、最古級の神宮寺の証拠である奈良時代の瓦は発見されませんでした。劔御子寺の様相は徐々に明らかになってきました。今後の発掘調査にご期待ください。